

寒空の下 元気に「取ったぞ！」

白川小学校「動くジャンボカルタ取り大会」

1月23日、白川小学校で冬の恒例行事「動くジャンボカルタ取り大会」が行われました。42回目となる今年のテーマは、食についてよく考え、作ってくれる人への感謝の気持ちを持ってほしいという願いから「食べ物」に決定。児童たちは昨年からうーめんや干し柿など、自分の好きな食べ物を題材に読み札を考え、上級生を中心に巨大絵札44枚を完成させました。

この日は、1～6年生の児童57人と白川保育園や市内の幼稚園の園児15人が参加。駆けつけた地域の人や保護者の熱い声援を受けながら、追う側も逃げる側も必死に校庭を走り回っていました。逃げ回る絵札をやっとの思いで捕まえると、児童は元気よく「取ったぞ！」と高らかに声を上げていました。

児童は「寒かったです、みんなで一丸となることができて楽しかったです」と元気に話してくれました。



1_縦54cm・横39cmの巨大絵札を背負って、とにかく逃げる逃げる！ 2_入学予定の園児たちも参戦。1年生のお兄さん・お姉さんたちを追い詰める？

伝統の踊りを引き継いでいく

大鷹沢小学校「団七踊り引き継ぎ式」

1月24日、大鷹沢小学校で「団七踊り」の引き継ぎ式が行われました。団七踊りは、江戸時代（1640年）に白石を舞台に起こったあだ討ちを踊りで表現したもので、「白石噺」として歌舞伎や浄瑠璃の演目として知られています。大鷹沢地区の八枚田があだ討ちの発端となったため、同校では地域の歴史と伝統芸能を守ろうと、昭和60年から伝承活動に取り組んでいます。

式には、卒業する6年生15人と4・5年生33人が参加。6年生が最後の団七踊りを披露した後、模造の刀となぎなた、鎖がま、衣装を4・5年生に引き渡しました。4年生は受け継いだ道具と衣装を身にまとい、5年生と共に団七踊りを披露しました。

伝統を引き継いだ4年生は「初めての団七踊りは緊張したけど、真剣に踊れました。この踊りを見る人に伝統への思いが伝わるよう踊っていきたいです」と話してくれました。



1_4年生が見守るなか、最後の団七踊りを披露する6年生。伝統への思いも引き継がれていきます 2_代々使用してきた刀となぎなた、鎖がまを手渡しました 3_4年生に衣装を着付ける6年生

盤上の静かな熱戦！

第57回新春囲碁・将棋大会

1月20日、「第57回新春囲碁・将棋大会」を中央公民館で開催しました。囲碁・将棋の実力向上と愛好家同士の親ぼくを図ろうと開催している恒例の新春大会に、今年は市内外から約80人の愛好家が参加。将棋部門では、小・中学生23人が参加するなど、近年の将棋人気を感じさせる大会となりました。

会場では子どもから大人まで、幅広い世代の愛好家たちが対局に取り組み、新年最初の腕試しを楽しんでいました。



▲真剣な表情で盤上を見つめる参加者

昔ながらの遊びを体験

第二幼稚園で「昔遊びの会」

1月18日、第二幼稚園で「昔遊びの会」を開催しました。この日は、3～6歳までの園児66人が、羽根突きやまりつき、コマ回し、お手玉、あやとり、折り紙、かるた、縄跳びの8つの昔ながらの遊びを体験。ボランティア「みなみの会」の皆さんに遊び方やコツなどを教わりながら、一緒に楽しみました。

参加した園児は、「みんなで遊べて楽しかったです。昔の遊びのほうがおもしろいと思いました」と笑顔で話してくれました。



▲おじいちゃんと一緒に上手にコマが回せるかな？

温もりのある手作り玩具に大満足

白石工業高校生が手作りおもちゃを贈る

1月22日、宮城県白石工業高等学校の生徒が北保育園を訪れ、自ら考案・製作した木製の手作りおもちゃを園児たちに贈りました。同校では、建築科の生徒が平成28年度から課題研究の一環として園児向けに玩具を製作。この日は3年生の生徒6人が、ドミノや動物を象った積み木のバランスおもちゃなどのほか、イスやテーブルもプレゼントしていました。

生徒たちは園児に遊び方を教えながら、一緒に楽しく触れ合っていました。



▲木製ハンマーで杭をトントン！ 夢中で遊ぶ園児